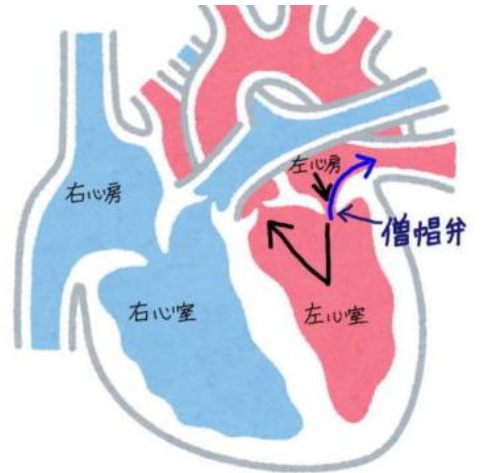


僧帽弁閉鎖不全症(そうぼうべんへいさふぜんしょう)について

僧帽弁閉鎖不全症とは、心臓にある僧帽弁という弁膜がきちんと閉じなくなってしまう、右のイラストのように、血液が左心室から左心房へ逆流してしまう病態です。わんちゃんにみられることが多く、発症は10歳前後からといわれています。重篤化すると呼吸が出来なくなり、命を落とす可能性もあります。初期の段階では無症状なこともあるため、症状が進行する前に、早期発見(レントゲン検査や超音波検査など)・早期治療が大切になってきます。



【症状】

- ・お散歩時に疲れやすくなった
- ・興奮した時や運動時に咳が出る
- ・お散歩中などに倒れる(失神する)
- ・無症状だが聴診時に心雑音がある

↓※注意する症状↓

(以下の症状がみられたら病院へご連絡ください)

- ・寝ている時でも呼吸が速い
- ・呼吸が苦しく、横になれない
- ・舌の色が紫色になっている など

【犬種】

主に中高齢の小型・中型犬種での発症が多いですが、その中でも以下の犬種はさらに多く見られます。

- ・トイ・プードル
- ・チワワ
- ・ポメラニアン
- ・マルチーズ
- ・キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル など



【治療】

★内科的治療

- ・投薬
- ・運動制限 など

★外科的治療

- ・手術

(一般的な動物病院では行っていないことが多い)

(症状の進行度によっては実施できないこともある)

